

シリーズ2, 庭木に利用する樹種の特徴と管理⑬

—ハナズオウ—

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村 正史

春に小さな紫ないしはピンク色の花を枝一杯につける花木をよく見かけます。これは、ハナズオウという花木です。花の頃には、まだ若葉が出ていないので、一見して作りものではないかと疑いたくなる花木です。

1. 特徴

ハナズオウは、マメ科ハナズオウ属の落葉低木で、中国原産です。江戸時代初期の頃に日本に渡来したそうです。本州、四国、九州に植栽されていますが、耐寒性が強いので、北海道でも植栽されています。花は春に咲きますが、富山県中央植物園の観察では、4月下旬から5月上旬にかけて咲きます(図-1、2)。花の色は紫ないしはピンク色ですが、白い花を咲かせるシロバナハナズオウという品種もあります。また、同属で別種のアメ리카ハナズオウもあります。ハナズオウに比べて耐寒性は強いのですが、耐暑性がやや劣るようです。

高さは3~5mぐらいになり、根元から分岐した幹が上に伸び、箒状になる性質があります(図-3)。

花芽は7月頃に形成されます。若い木では花芽は短い枝につきますが、成熟した木では長い枝にもつくようになります。

マメ科植物ですので、根には根粒菌というバクテリアが住みついております。この菌は空気中の窒素を取り込んでそれを植物に供給します。そのため、ハナズオウは窒素肥料を与えなくても生育できるという特徴があり、あまり土地を選びません。しかし、できるだけ排水のよい場

所に植栽してください。また、日陰に植栽すると花つきが悪くなりますので、日当たりのよい場所に植栽してください。

2. 管理

根元から株立ちした幹が多ければ混みすぎの影響がでますので、早めに残す幹を見極め、残りの幹は根元から剪定してください。

枝の剪定は冬期間に行いますが、花芽はすでに出来ていますので、混みすぎた枝や樹形をみだす枝を剪定するようにしてください。

なお、写真はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。2012年までは、富山県中央植物園の「染めの植物」コーナーに植栽されていましたが、2013年に「雲南の植物」コーナーに移植され、現在に至っております。

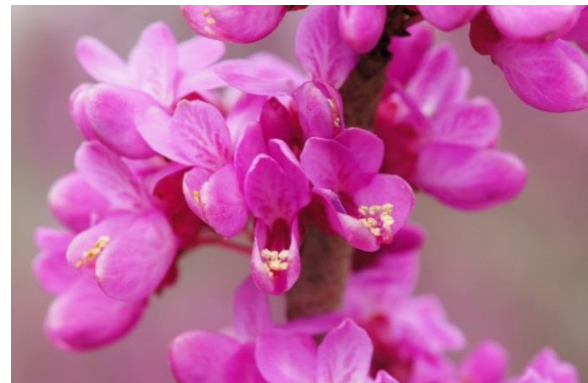


図-2 拡大したハナズオウの花。
2011年4月26日撮影。



図-1 ハナズオウの花。
2011年4月26日撮影。



図-3 株立ちで箒状のハナズオウ。
2011年4月26日撮影。